



# 施政方針

# コロナ禍を克服し「子育ての喜びが見えるまち」の実現へ



施政方針全文



議会で施政方針を述べる守本市長

2月24日に招集された第101回市議会定例会において、守本市長が市政運営の基本方針や主要施策をまとめた施政方針を述べました。その概要をお知らせします。なお、施政方針の全文と予算の詳細はホームページからご覧いただけます。（予算と主要事業の記事は4〜7頁）

### 【時代認識と市政理念】

今なお続く新型コロナウイルス感染症が与える影響は、本市においても甚大です。コロナ禍において、さまざまな施策を実施する中で、特にコミュニティ力の強さという本市の力、可能性の大きさを改めて認識できました。その強みを生かし、市民にとって「住み心地よく生きがいのあるまち」、訪れる人にとって「二期一会の楽しみがあるまち」、未来を担う若者にとって「挑戦しがいがあるまち」、そしてすべての人に「子育ての喜びが見えるまち」、すなわち「生きたい、行きたい、活きたい南あわじ」を実現すべく尽力します。この目標の実現のため、「五つの行動」の取り組みをさらに発展、本格稼働させ、皆さまとともに希望に満ち溢

れ、次世代が自信をもって故郷と言える南あわじ市を創ってまいります。

### 【五つの行動】

- ① 超高齢化社会の克服  
超高齢化による社会問題は、我が国が抱える本質的な課題であり、本市が取り組む多くの仕事、この問題の解決と直結しています。人生100年時代といわれる現代において、高齢者が生きがいを持ち、安心した毎日を送っていただけけるよう、高齢者等元気活躍推進事業、健康づくり、介護等、連携した施策を展開していきます。
- ② 子育て環境の向上と教育の充実  
「学ばせし日本」を目標に、すべての子どもたちがやりたいことを見つけ、自ら努力し、成長し、能力を最大限伸ばしていく教育環境を構築します。子どもたちが地域の人々に見守られて過ごす場の拡充を図り、地域の人々が応援し、見守り、育み、地域全体で子育てを支援する基盤づくりに取り組めます。子育て世代への支援体制の充実を図り、若者の移住や定住を進め、出産・育児世代に選ばれる、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めます。これら三つの柱で「子育ての喜びが見えるまち」をめざします。
- ③ 地域の資源を活かした地元産業の活性化  
淡路島、本市が持つ、豊かな土壌と海が生み出す農畜水産物や、自然が作り出す世界に誇る観光資源に恵まれた地域の特徴を生かし、既存の産業を活性化するとともに、若者たちが自ら仕事を作り出すことができる環境づくりを進めます。ま

た、地場産業をはじめとする地域商工業についても、新たな付加価値づくりに取り組み、伝統を絶やさぬよう、後継者の育成を支援します。

### ④ 安全・安心のまちづくり

本市は、南海トラフ巨大地震で、津波による甚大な被害が想定されます。最新の災害想定を反映したハザードマップを作成し、市民、地域の防災力の向上を図ります。犯罪や事故が少なく、市民の皆さまが安全にかつ安心して暮らせるよう、消費者被害の防止や相談受付、交通安全の啓発、地域防犯活動の支援を引き続き行います。安定した水の供給、生活環境の改善と自然環境保全のためのごみ処理、道路の維持管理、下水の処理等を適切かつ確実に実施し、生活基盤を守ります。

### ⑤ 「対話と行動の行政」の実現によるまちづくり

各地域が抱えるさまざまな課題を解決するため、引き続き、地域と行政が対話を重ね、将来について共通の認識を持ち、共に取り組むまちづくりを推進します。職員一人ひとりが意識を高く持ち、現場の実態や意見を確実に把握し、最適な解決の方策を自ら考え、果敢に挑戦していく組織づくりを進めます。

### 【結びに】

コロナ禍における皆さまの日々の不安の解消に向け、ワクチン接種をはじめ、必要な施策を切れ目なく展開します。絆を大切に、ポストコロナの時代にさらなる飛躍ができるよう、先を見据えながら施策を積み重ねていきます。

## 南あわじ地域が日本農業遺産に認定されました



認定の要因である水稲とタマネギ小屋の風景

農林水産省が、将来に受け継がれるべき伝統的な農林水産業を営む地域を認定する「日本農業遺産」。2月19日、南あわじ地域が、「南あわじにおける水稲・たまねぎ・畜産の生産循環システム」として同遺産に認定されました。南あわじ地域では、島という土地や水が限られた条件の中、水稲とタマネギ

の二毛作栽培と畜産の連携などにより、資源を循環することで農業が発達してきました。今回の認定では、資源の循環に、タマネギ小屋のある風景などの要素、それに関連する水利組織「田主」や産地商人などが組み合わさって、長年産地を維持していることが評価されました。認定を受け、守本市長は「タマネギ、レタスなどのブランド力のアップや、農業体験などで観光の促進につなげたい」と話しました。

## 淡路島サクラマスメ島内39店舗で解禁

福良湾で養殖されている「淡路島サクラマス」を使ったオリジナル料理の提供が、3月1日から始まりました。5年目となる今回は島内39店舗が参加し、83メニューを販売。提供期間は5月末までで、丼、鍋、テイクアウトなどのカテゴリで各店舗のオリジナルメニューを楽しめます。詳しくは、二次元コードから特設サイトをご覧ください。



工夫を凝らしたオリジナル料理を披露する料理人ら



淡路島サクラマスメ島内39店舗の特設サイト

## 卒業生の思い出づくりに阿万小で瓦ミニユメント制作

3月に阿万小学校を卒業する児童らの思い出づくりにと、瓦のミニユメントが制作されました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で学校行事が中止や延期となる中、「卒業する6年生26人の思い出を残してあげられないか」と阿万地区地域づくり協議会が小

学校に提案。地場産業に興

味を持つ機会にもなればと、瓦を使ったミニユメントを制作することとなりました。ミニユメントに刻まれた模様は児童らが描きました。

3月16日に行われた完成セレモニーには、児童や地域づくり協議会のメンバーらが参加。ミニユメントが披露され、児童らは笑顔を見せました。



ミニユメントを制作した児童地域づくり協議会のメンバーら

## 前南あわじ市長 中田勝久さんが逝去



前市長の中田勝久さん

前南あわじ市長の中田勝久さんが、3月14日に83歳で亡くなりました。中田さんは旧三原町議を経

て、平成6年から同町長を3期務めました。旧三原郡4町が合併した平成17年には初代南あわじ市長に就任。平成29年まで3期務め、少子対策や防災対策、産業振興をはじめ、観光・教育・文化の向上に献身的に取り組まれました。南あわじ市発展の基盤を築いた中田さん。ご冥福をお祈りします。